

コロナ顛末記 (1)

私の春は、ウグイスカグラの花から始まります。今年は三月も半ばになるとたくさんの花をつけていました。今は赤い実がぶら下がっています。

その間に、小さな小さな侵入者が世界を席捲してしまいました。私自身も、もう三か月近く電車にもバスにも乗っていません。というのも住んでいるのが築40年のマンション。65歳以上の高齢化率がこれまた60%以上です。こんな環境の中で自身の感染で知人が命を落とす事になったらと。。。。。

可愛い草花達が助け舟をだしてくれたのです。そして周りに素晴らしいフィールドがあります。桜が咲きだすとアケビの花も咲き、新芽をグングンのばしていきます。その新芽を`頂きます`と挨拶して摘み、茹でて酢味噌とか胡麻和えにして食します。ほろ苦くてまさに春の味です。これは夫の転勤先の新潟で覚えました。この頃になるとスマレ、キランソウ、フデリンドウ、タンポポなどが地面を染めていきます。そして、いよいよキンラン、ギンラン、クマガイソウの出番が近づきます。ちなみにクマガイソウは4~5年前に突然、団地の中で復活しました。近隣の民家のお庭で咲いているのはよく見かけていましたので、造成される前の里山にはたくさん咲いていたものと想像しています。キンラン、ギンランが急速に増えだしたのも、土壌が里山時代に戻りつつあるのかなと素人の目線で考えています。タツナミソウが日当たりの良い所から咲きだします。タビラコが咲きだすと、黄色が圧倒します。タビラコには種類がありますがコオニタビラコは、春の七草のひとつ`ホトケノザ`のことです。又、早いものでは歳の暮れあたりから咲いているピンク色の可愛い花のホトケノザもありますね。

我が家の隣は三保市民の森です。常緑樹が多くてどちらかというと暗い森でとても私一人では周りは歩けても中には行けませんでした。コロナ禍の影響でウォーキングする人が少しふえましたので久し振りにイチリンソウを見たくなり思いきって中に入ってみました。3~4年行かない間に整備されて、随分明るくなっていたのです。それからは雨天を除いてほぼ毎日、ウォーキングを兼ねて草花ウォッチャーをしています。変わりましたね、明るくなるだけでこれほど変わるのかと思うほど。キンラン、ギンランは劇的に多くなりました。イチリンソウは葉だけが合った場所に20輪ほどが風に揺れていましたしニリンソウ、マルバスマレ、ジロボウエンゴサクなどは以前と同じ場所で頑張っていました。収穫はセリバヒエンソウです。私の好きな花で、峰野薬師の登り口まで行けば普通に見られるのですが、種を頂いて播いても出てきませんでした。初めて歩いた道の端に盛り上がるように咲いているのを見た時はつい`こんな所にいたの!`って声をかけてしまいました。

今、コロナの事は「なるようにしかならない」と思って過ごしています。